

訪中・訪日旅行者は 両国国民の心をつなぐ使者

中国文化旅游部の李金早副部長は12月4日と5日の両日、山梨県北杜市で開催された第1回中日観光代表者フォーラムで、中国と日本の二国間における観光交流について「ここ数年、双方向の交流人口は年間平均20%以上の伸びを示しており、2018年には1175万人までに増加している」と指摘。「訪日中国人旅行者と訪日日本人旅行者は何れも、両国の国民の心をつなぐ使者であり、文化を伝える人達であると言える」と語って、双方向交流の重要性を強調しました。

李副部長は「文化や観光の交流が政治関係の改善にも貢献してきている」と評価。「地方間交流、青少年交流、文化・スポーツ交流は、双方向の観光交流を支える3つの架け橋だ」と持論を展開しています。

中日友好の未来を築く フォーラムに期待

駐日中国大使館の郭燕公使も「現在、中日関係は非常に良好な状態を維持しており、習近平主席による来春の訪日を実現すれば、12月末に中日韓3カ国首脳会談に出席するため成都を訪れる安倍首相の訪中と合わせ、12年ぶりの中日首脳による相互訪問となる」と説明。昨年の「中日青少年交流推進年」に続いて、今年も「中日文化観光スポーツ交流年」と位置づけられており、郭公使は「中日間の交流が新しい形で生まれるなど、両国の国民による

未曾有の大交流時代を迎えている」という認識を示しています。郭公使は、さらに、「より多くの日本人旅行者に中国を訪れていただき、日本の方々が中国への理解を深め、国民感情の改善に資することを希望する」と語り、「中日友好の未来を築くこのフォーラムに期待している」と呼びかけました。



フォーラム実行委員会の最高顧問を務める自民党の二階俊博幹事長(左)から李副部長に記念品が贈られました

未曾有の大交流時代を迎えている」という認識を示しています。郭公使は、さらに、「より多くの日本人旅行者に中国を訪れていただき、日本の方々が中国への理解を深め、国民感情の改善に資することを希望する」と語り、「中日友好の未来を築くこのフォーラムに期待している」と呼びかけました。



フォーラム開催を記念して行われた関係者による植樹



駐日中国大使館の郭燕公使



中国文化旅游部国際交流合作局の張西龍副巡視員



世界旅游連盟の劉士軍事務局長(左)



第1回中日観光代表者フォーラムに参加した両国の関係者ら

中国駐東京観光代表処

※7〜8ページにフォーラムの詳細レポートが掲載されています